

・ 午後の締めくくりの時間には、それぞれの2024年の取り組みと、チームとしてどうしていくかの話題を話し合いました。(偶然ですが、この11月に合宿というタイミングって絶妙ですよ)

合宿の最後に2024年につながる時間を設定して頂いて、感謝しています。

職業柄もあり、周りの人よりも気付いたり、その気付きに沿って活動されるのが早いメンバーに対して、陽子さんが「ぶっちゃけみんな感謝してる？」と切り込んでいったのは、対面ならではの"気付きの与え方"と思いました。(オンラインでも言えなくはないのですが、対面の方が趣旨が正しく伝わると思いました)

合宿で同室となったメンバーが「この人に愚痴るようになったらダメだ」と言っていたのも印象的でした。

陽子さんから、行動の速さは、自分のペースで進める方が楽だという理由もあるけれど、周りの人が間を取れるように一拍置いてみることを薦め、その後実際に、次のオフ会にまつわる予約を他のメンバーにお願いするという実践が合わさっているのがさすが合宿ならではの思いました。

10プロでのふるまいが変わることで、コーチング練習会などで課題として上げられている職場でのふるまい方が変わり、扱われ方も変わっていくのかもしれないと思いました。

他のメンバーの理想の人間関係の言語化について、大切にしたいと考える人たちへの「甘え」を取り払ったところに、良い人間関係の形成が生まれるという陽子さんのメッセージを聞きました。

前日夜に涙を流されていた家族のことが、理想の人間関係構築の話に出てこなかったことへの疑問を尋ねた時に、陽子さんから「甘えていないから、結果的に一番理想の人間関係になっている」という、驚きの回答がありました。

私には家族にされている「甘え」がどんな甘えかピンと来ていない部分もあるのですが、「甘え」が親しさの裏返しと捉えていたメンバーがその部分を封じてみることで、**2024年**にどのような変化が生まれるのか深掘りしたいと思いました。

私の目標への関わりを悩むということも改めて聞きました。2023年のチームミーティングを通して、10プロ、特にチームメンバーに求めるものは、**目標に対する具体的アドバイスがあれば嬉しいけれど、それよりもむしろ、日常生活では身近に見付けることが難しい「共に頑張る」仲間感なんだと思うようになりました。**

陽子さんから、ただ存在で勇気づけられていることは、日々の姿を360度見られているということなんだという、2024年のテーマ「憧れ」にもつながる話がありました。

自分自身も、追いかける目標そのものは**10プロ**の皆に伝わりやすいものでなくとも、それを追いかけている/取り組んでいる姿を見せ続けることは意識したいと思いました。

(A.S 40代女性 北海道)